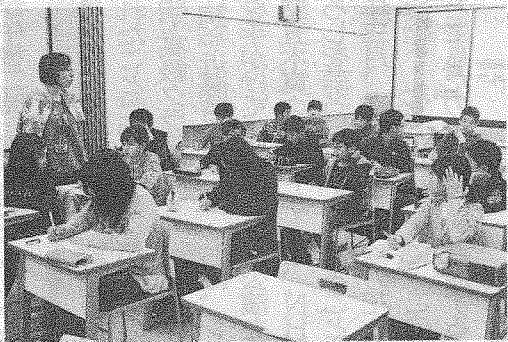


「復興のためできることは」

有明塾チャリティー模試 生徒が被災地支援を考える



ワークショップで被災地支援を考える生徒たち

ヨップを実施。被災地の復興には何が必要か、復興にどれほどの期間やお金が必要か、今までの自分を振り返りこれからどんな道を歩みたいか、などを考えてもらい、生徒たちが解答用紙に意見を書き込んでいった。終了後に模試が始まり、気を引き締め、問題に挑戦していた。

大牟田、荒尾市に校舎を置く学習塾「有明塾」（倉岡清信塾長）は四日、春期チャリティー模試を開いた。模試の前にワークショップを行い、生徒たちが「東日本大震災被災地の復興のためにできることは」と被災地支援について考え、自分を見つめ直した。

同塾では、震災直後から東北への支援を開

始。被災地の寺社再建のために義援金を贈るなどの活動をしてきた。チャリティー模試は三年前から実施。今回は一日から四日までの日程で小、中学生約二百人が参加し、その参加料を被災地支援に役立てる。

この日、新栄町駅前に「震災と未来を考える」と題してワークシ

足達汰一君（白川小学校四年）は「地震と津波の様子をテレビで見て、すぐには信じられませんが、家族がいなくなったり、もう一度まちをつくっていくのは大変だと思うけど、募金などで東北の人たちの役に立ちたい」と話していた。

（牛島 亮介）